

研究分野		授業科目名				科目責任者	
形態系分野		超音波診断学特論Ⅰ・Ⅲ				畠 二郎	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻， 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4（2/年）， 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 正確な超音波診断を身につけるため、超音波全般の基本的知識を修得する。 (2) 診断に必要な画像解析と各種疾患に関する知識を修得する。							
授業到達目標							
(1) 超音波工学の基礎的事項について説明できる。 (2) 超音波画像技術について説明できる。 (3) 超音波医学の新しい診断技術について説明できる。 (4) 超音波診断の最近の知見について説明できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	水	16:30-17:30	畠 二郎	講義	[症例検討会]	興味深い症例の画像を読影する。 [場所:内視鏡・超音波センター]
2	隔週	水	17:30-18:30	畠 二郎	講義	[抄読会]	超音波工学の基礎、超音波診断の比較的新しい話題などに関する文献を紹介する。 [場所:内視鏡・超音波センター]
3	隔月	第2木	19:00-20:30	畠 二郎	講義	[抄読会・ 症例検討会]	画像読影演習と疾患の超音波像に関する講義のオープンカンファレンス [場所:内視鏡・超音波センター]
評価方法							
<b>【特論Ⅰ】</b> (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 <b>【特論Ⅲ】</b> (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文（症例）であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁：単位履修方法参照。							
課題（レポート等）に対するフィードバック							
(1) 紹介論文の要約について、添削して返却する。 (2) レポートについて、添削し返却する。							
教科書							
ISBN-9784938372842, 腹部超音波テキスト<上・下腹部>（改訂第3版），辻本 文雄 他，バクトル・コア，2002							
参考書							
ISBN-9784526063947, 超音波技術入門 - 発信から受信まで，宇田川 義夫，日刊工業新聞社，2010 ISBN-9784906714049, 超音波の基礎と装置（四訂版），甲子 乃人，バクトル・コア，2013							
準備学習（予習・復習等）							
(1) 週3時間程度，参考書を精読し，疑問点は他書等により調べる。 (2) 紹介された新技術に関する論文を再読し，関連文献を検索する。 (3) 画像解析演習で経験した症例に関し，その特徴を整理する。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
(1) 課題を探究し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的・方法的・思考法を知悉する。 (2) 医学・医療の分野を牽引し，指導的役割を果たすことができる。							
注意事項・メッセージ							
特に音響学と工学に関し，随時試問を行うので，日頃から勉強しておくこと。							